

2 級第 13 回 学科試験問題傾向分析と今後の対策

【総評】 (第 11 回との比較)

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲の出題数に、大きな変化はみられない		①②③④参照
B	科目・範囲として新たに設定された「学校教育制度、キャリア教育」については1問の出題であり、その分、相談実施過程において必要なスキルが1問減少した		①②③④参照
C	1選択肢の文字数は少なく、全体的に簡潔になっている		③④参照
D	細かい知識・数字や各論に踏み込んだ内容の出題が多い	問 1 問 11 問 24 問 40 等	②参照
E	これまで出題されていない分野から、初めての出題がみられる	問 19 問 23 等	②参照
F	日本語の「語感」で正解肢がわかる出題がみられる	問 15 問 27 問 45 問 46 等	⑤参照

【科目・範囲ごとの出題数()は第 11 回からの増減)、難易度】

科目	範囲	出題数()	難易度
1①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	2(+1)	難・中が各 1 問
1②	キャリア・コンサルティングの役割の理解	1(-1)	易が 1 問
1③	キャリア・コンサルティングを担う者の活動範囲と義務	2(±0)	易が 2 問
2①	キャリアに関連する理論の理解	4(±0)	難・中が各 2 問
2②	カウンセリングに関連する理論の理解	3(±0)	難が 2 問、中が 1 問
2③	自己理解に関する理解	3(±0)	中が 3 問
2④	仕事・職業に関する理解	3(±0)	中が 1 問、易が 2 問
2⑤	職業能力開発に関する理解	2(±0)	中・易が各 1 問
2⑥	雇用管理(人事管理・労務管理)に関する理解	3(±0)	難が 2 問、中が 1 問
2⑦	労働市場に関する理解	2(±0)	中・易が各 1 問
2⑧	労働法規、社会保障制度に関する理解	2(±0)	易が 2 問
2⑨	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	1(+1)	易が 1 問
2⑩	メンタルヘルスに関する理解	3(±0)	難・中・易が各 1 問
2⑪	ライフステージ、発達課題に関する理解	3(±0)	難が 2 問、易が 1 問
2⑫	転機に関する理解	1(±0)	易が 1 問
2⑬	相談者の類型的・個人的特性に関する理解	1(±0)	易が 1 問
3①	基本的スキル	3(±0)	易が 3 問
3②	相談実施過程において必要なスキル	3(-1)	中が 3 問
4①	キャリア形成、キャリア・コンサルティングに関する教育、普及活動	2(±0)	易が 2 問
4②	環境への働きかけの認識と実践	2(±0)	易が 2 問
4③	ネットワークの認識と実践	1(±0)	易が 1 問
4④	自己研鑽・スーパービジョン	2(±0)	易が 2 問
4⑤	キャリア形成支援者としての姿勢	1(±0)	易が 1 問

【今後の勉強への指針】

対 策	
①	合格ライン(70 点)を確実にクリアするために、「毎回出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」を確実に理解し、得点する
②	「今回初めて出題された範囲」や「細かい数字」にとらわれるよりも、「2 級キャリア・コンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な、基本的かつ基礎的知識を中心に習得する
③	「過去問集」とともに「キャリアの赤本」を活用し、必ず押さえておくべき「頻出分野」や内容を把握して確実に得点できるようにしておく
④	学科試験対策用テキストである「キャリアの青本」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を得る
⑤	試験に慣れて、「日本語の語感による正答(例:必要がない、必ず等)発見」のテクニックや時間配分の技術、ケアレスミスをしないう方法を体得する 例:「最適な」「だけ」「かならず」「のみ」等 強調する語彙や決めつける語彙は要注意! 試験の際はその語彙に注視する

以上